

## Contents

- ・ 地域医療連絡室  
予約センターの有効利用  
と活用について  
院長 戸田剛太郎
- ・ 診療科のご紹介  
整形外科  
患者さんのQOL向上をめざして
- ・ 脳神経外科  
最新鋭のCT、MRIを駆使して  
診療にあたっています
- ・ NEWS & NEWS  
糖尿病教室を再開します  
地区別医療懇話会

# 地域医療連絡室予約センター の有効利用と活用について

昨年より予約センターが新しく立ち上がり、1年が経ちました。特にCT、MRI、核医学検査、心臓超音波画像検査、腹部超音波画像検査、上部消化管内視鏡検査の予約は、診療科を通さず直接放射線科につながるなど、簡単な手続きで患者さんをご紹介いただける便利なシステムとなっています。

せんぽ東京高輪病院 院長 戸田 剛太郎



近年、医学、医療は急速な進歩と展開がみられており、すべての領域で最先端の技術と知識を持つことがきわめて困難となっております。また、診療機器の進歩も目覚ましく、しかも高額となってきています。このような意味で、病院と診療所の機能的な連携（病診連携）はこれからの医療には必須の体制と考えています。せんぽ東京高輪病院では各領域の専門家の知識と技術、診断機器を先生方に利用しやすいように新しい予約センターシステムを立ち上げ1年経過しました。

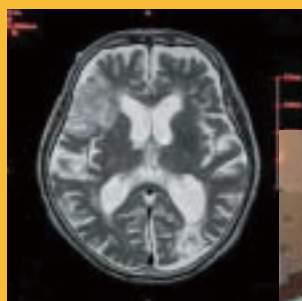
診療科への御紹介は地域医療連絡室予約センター（TEL:3443-9576、FAX:3443-9570）に御連絡をいただきますと、予約センターで適切な日時を選択し御連絡いたします。前述しましたように、この新しい予約システムが動きはじめて1年になります。お陰さまでご紹介患者は平成14、15、16年度、増加傾向にあり、紹介患者数は新しい予約システムを導入した平成16年度には前年度と比較して約7%増加し、平成15年度の前年度比較の伸び率3%と比較して2倍近い伸び率となっていました。診療科別では平成15年度と比較して増加のみられた診療科は内科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科でした。特に放射線科においては、平成16年度の紹介患者数は前年度と比較して74%の増加がみられました。

放射線、超音波を用いた画像検査は日常診療に必須のものとなってきています。また、一方、画像検査機器も目覚ましい進歩を遂げつつあります。当院ではCT、MRI、核医学検査、心臓超音波画像検査、腹部超音波画像検査など画像検査については、電話またはFAXで予約センターに連絡いただきますと、診療科を通さずに、放射線科に直接繋ぎ、日時を決めています。先生方におかれましては自分の診療所にある放射線科の気持ちでご利用いただければと思っています。読影結果についてはFAXあるいは郵送にてご報告いたします。当院では平成15年16列マルチスライスCT、平成16年には1.5テスラMRIを導入いたしました。CT検査件数、MRI検査件数をみても、MRI検査の紹介件数については平成15、16、17（4～8月）年度の月平均MRI検査件数はそれぞれ7、16、34となっており、目覚ましい増加がみられました。一方、CT検査の紹介件数は平成15、16、17（4～8月）年

度の月平均CT検査件数はそれぞれ11、19、17となっており、件数としては目覚ましい増加はなく、16、17年度は横這いです。CT検査は中枢神経系疾患、特に脳梗塞の診断にはMRI検査より劣っていますが、胸腹部の疾患の診断にはMRI検査より優れています。CT検査についてご利用のほどよろしくお願い申し上げます。

消化管内視鏡検査についても上部消化管の検査についても診療科を通さずに内視鏡検査を受けていただくシステムを立ち上げています。検査は火曜日、水曜日、金曜日に行います。地域医療連絡室にお電話いただきますと検査の日時を御連絡いたします。内視鏡検査の際、生検、ポリープ切除など出血を伴う場合もありますので、患者さんが抗血小板薬、抗凝固薬等を服用している場合、検査の6日前から服用を中止するように指導お願いします。なお検査当日は内視鏡検査に先立って、感染症検査（HBs抗原、HCV抗体、梅毒血清反応）の必要があります。その他、診療科を通さずに予約いただける検査にはホルター型心電図、脳波があります。検査結果についてはFAXまたは郵送にてご報告いたします。下部消化管の内視鏡検査につきましては消化器内科または外科外来を通して予約いただくことになっております。同様に睡眠時無呼吸症候群(SAS)に関する検査、トレッドミル運動負荷試験も、それぞれ呼吸器(SAS)外来、循環器外来を受診していただき予約日を決めることになっております。

せんぽ東京高輪病院職員一同、皆様の診療にお役に立てるようこれからも最善の努力をする所存でございます。よろしくお願い申し上げます。



脳梗塞MRI



1.5テスラMRI



腹部CT



16列マルチスライスCT

## 診療科の紹介 整形外科

# 患者さんのQOL向上をめざして

整形外科部長・リハビリセンター長

なかがわ たねふみ

中川 種史



### 整形外科について

当院整形外科は、1階入り口正面で外来を行っています。また入院患者さんには主に6階病棟に入っております。整形外科の医師は5名です。

整形外科で診療する対象は、外傷と障害の2分野に分かれると考えています。近年、社会の高齢化に伴ない、外来へお見えになった患者さんのなかで一番多いのが、加齢に伴う障害であります。内訳としては変形性膝関節症による膝痛、変形性腰椎症や脊柱管狭窄症による腰痛、下肢痛、変形性頸椎症やそれに伴う神経根症による頸部痛、肩部痛の患者さんが多いようです。

### 外来診療とその考え方

診療の内容としては、外来では、症状、臨床所見などの診察、レントゲンや高い画質のMRI、CTなどでの画像診断、迅速な採血などによる検査、筋電計を使用した生理機能検査などによる診断、治療としては投薬、注射、リハビリ、生活指導などによる疼痛などの症状の改善、ギプス固定、外傷の消毒などの処置などを行っています。特に年齢が高くなってきた患者さんには、一時的にでも疼痛の軽減を図るのが、患者さんのQOLの改善につながるかと考えており、是非の議論もありますが注射やブロックなどの手段を多用して治療にあたっています。

一方当院は救急外来も行っており、切り傷など出血性の外傷、交通事故の頸部痛、急性の腰痛、種々の捻挫、骨折などでいらっしゃるケースも多くみられます。スタッフ全員で適切な初期治療を行い、機能回復に問題が生じないように努めております。入院では、病状の精査、保存治療、手術治療さらにその後リハビリテーションなどを行っており、リハビリテーションにあたっては患者さんの機能、要望に応じてじっくり行っています。

### 上肢の神経外傷、疾患

本院では特に特殊外来は行っていないませんが、われわれの得意と

するひとつの分野は神経外傷、手、上肢の外傷、スポーツなどの上肢での障害などです。なかでも腕神経叢損傷、分娩麻痺という腕の麻痺している患者さんへの治療は、当院で非常勤で外来を担当して下さっている本疾患の権威の原先生、高橋先生の指導を都立広尾病院で受け、また私自身の東京大学病院での経験もあり、さらにこの疾患に経験の豊富な作業療法士との協力によって専門性を持った病院として力を入れております。損傷部位の診断、手術的な神経修復、機能再建、そして術前後のリハビリテーションそれぞれを組み合わせ、高度の障害を背負った患者さんの社会復帰に勤めています。

また神経障害としては、肘での尺骨神経障害である、肘部管症候群の研究をしてまいりました。この疾患に対する手術経験の応用としての野球選手などの肘への手術を多く経験し、何人かの選手は手術により第一線で活躍してくれています。もちろん一般の方の肘関節疾患も多く治療させていただいています。

### スポーツ医学での活動

スポーツ医学における院外活動では、日本体育協会のアスレティックトレーナーの育成、検定、日本女子体育大学の健康管理室で学生の健康相談などを行っています。日本体育大学では数年にわたって講義をしておりました。またスポーツ現場ではトップレベルのラグビー、サッカー、アメリカンフットボールチームの試合、遠征への帯同などをしてきました。それらの経験を生かして、当院においての治療に当たっております。

### 最後に

私個人としては以上のような得意分野もありますが、どのような疾患でも患者さんが何に困っており、どのように改善を望んでいるかをよくお聞きして、自分の技術を応用して何ができるかということを考えて診療に従事しています、お役に立てることがあれば幸いです。



## スタッフやリハビリテーションセンターとの密接な連携で、チームワークのとれた治療を行っています

整形外科 部長 白土 貴史

現在整形外科は中川部長をはじめとして5人の常勤スタッフと2人の非常勤スタッフで診療を行っています。整形外科疾患全般にわたり、外来・入院診療、手術を行っています。また治療に際してはリハビリテーションセンターの理学療法士・作業療法士と密接な連携をしています。特に腕神経叢損傷や分娩麻痺をはじめとした末梢神経領域の治療においては、経験豊かな医師、作業療法士により治療が行われています。

### 外来診療

月曜から土曜の午前中と月曜・火曜・木曜の午後に通常の外来を行い、一部金曜午後に非常勤の原医師による分娩麻痺を中心とした特殊外来を行っています（受診に際しては整形外科外来までお問い合わせください）。外来では変形性腰椎症・変形性関節症を中心とした変性疾患。骨粗鬆症。椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などの脊椎疾患。炎症性の疾患。骨・関節の外傷・疾患。スポーツ外傷・障害など整形外科全般の診療をしています。CT・MRIなどの各種検査、骨密度測定なども行っています。

### 入院診療

手術を要する症例を中心に必要に応じて入院での精査、経過観察にも対応しています。手術としては前述の腕神経叢損傷や

分娩麻痺に関連するものは他院より圧倒的に多くの症例を行っています。一般的な整形外科で行う手術のほとんどに対応しています。治療に際してはリハビリテーションセンターと連携を密にして術後早期、場合によっては術前からリハビリテーションを開始してより早期の機能回復、社会復帰を目指しています。

### 変形性関節症

膝・股関節を中心に治療を行っています。外来での膝関節に対するヒアルロン酸注入やリハビリテーションによる筋力強化、足底板作成などの保存療法、入院治療では膝関節鏡による滑膜切除、人工関節置換等を行っています。

### スポーツ障害・外傷

スポーツ障害では、リハビリテーションでのコンディショニングにより改善できる症例も多いかと思えます。外傷は一般的な整形外科としての治療に加え、とくに膝などでは関節鏡視下での手術が可能です。また術後もリハビリテーションセンターと密接に連絡を取り合いながら可及的早期から行い早期復帰を目指しています。

症状がよくならない難症例などで、お手伝いできることがあるかもしれませんのでよろしくお願いいたします。



診療科の紹介 脳神経外科

# 最新鋭のCT、MRIを駆使して 診療にあたっています

脳神経外科部長・集中治療室部長

脳神経外科専門医

ひやま ひろふみ

日山 博文



脳神経外科では、主に脳血管障害（くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血、脳梗塞）、脳腫瘍、頭部外傷（頭蓋骨骨折、脳挫傷）など脳の器質的疾患の診断と治療にあたっています。

脳梗塞は、日本の高齢化社会の到来とともに患者さんの数が増加しています。突然の半身麻痺や痺れ、呂律障害などで発症することが多く、早期の診断と治療が大事です。診断はMRI検査の拡散強調画像により早期診断が可能です。治療は脳血流改善剤、抗血小板薬、抗凝固剤、そして（梗塞巣に出現し組織を障害する）フリーラジカルを捕獲する薬などを点滴にて2週間ほど行います。梗塞の程度にもよりますが、治療が発症早期であればあるほど症状の回復が得られる可能性が高くなります。

突然の激しい頭痛、嘔吐、そして意識障害で発症するくも膜下出血は、その出血源である破裂脳動脈瘤を処置しても重い後遺症が残る怖い病気です。最近MRIの普及とともに破裂する前に脳動脈瘤を発見し手術あるいはカテーテル治療でこれを処置することが多くなっています。ただしすべての脳動脈瘤を治療するのではなく、破裂する可能性が高いと考えられる、1)大きな、2)形が不整な、3)増大傾向のある、脳動脈瘤が早期に治療されます。

脳腫瘍には髄膜腫、聴神経腫瘍、下垂体腺腫などの良性腫瘍と神経膠芽腫や転移性脳腫瘍などの悪性腫瘍があります。このうち転移性脳腫瘍は高齢化と癌治療の進歩により罹患する患者さんが多くなっています。脳転移はいったん生じると周囲に広範な脳浮腫を伴って増大するため患者さんの状態が急速に悪化します。このため原発癌や（脳以外の）他臓器転移巣より優先して脳転移巣が治療されます。小さなものはガンマナイフ治療などの定位的放射線治療が行われます。3 cm前後の大きさになると手術治療が

とられます。当科には多くの転移性脳腫瘍の患者さんが紹介されており、癌患者さんの末期のQOLを向上させるべく治療に取り組んでいます。

近年脳神経外科領域で注目されている疾患に特発性正常圧水頭症があります。加齢とともに脳脊髄液が脳室にたまり歩行障害、失禁、軽度痴呆を来す疾患です。MRIの冠状断撮影、髄液排除試験などにより診断は比較的容易です。脳室の髄液を腹腔に流すシャント手術を行うことにより症状が軽快します。高齢者における歩行障害や痴呆患者さんの数パーセントの方がこの病気だと言われ、「治る歩行障害、治る痴呆」として最近話題になっています。

地域の先生へ：当科の外来では地域の皆様の頭痛、めまい、四肢のしびれ、けいれん発作、などの症状を迅速かついいに診ています。最近パソコンを仕事で用いる方に筋収縮性頭痛が多くなっています。めまいは耳鼻科、しびれは整形外科の先生方の協力も得て診察しています。脳神経外科疾患の診断にかかせないCTやMRIは最新鋭のものであり、（大学病院などと違い）患者さんをあまり待たせることなく検査することができます。治療にあたっては最先端の良質な脳外科治療（手術等）ができるよう努力しています。上述したカテーテル治療やガンマナイフ治療も東京女子医大脳神経外科教室の専門スタッフの支援を得て患者さんに提供できています。「脳」に関して心配する症状がありましたら気がねなく外来にいらしてください。

（脳神経外科）



おかみ のぶや

岡見 修哉 脳神経外科医長 脳神経外科専門医



たむらのりこ

田村 徳子

（整形外科）



ふじまき りょうまさ

藤巻 良昌



ほさか ようこ

保坂 陽子



はら てつや

原 徹也（非常勤）



たかはし まさたる

高橋 雅足（非常勤）

NEWS  
&  
NEWS

## 糖尿病教室を再開します

10月から糖尿病教室が再開されることになりました。毎週水曜日の午後に開催されます。1コース2日間で内容は次のとおりとなっております。

- 1回目 ①糖尿病の基礎知識 ②糖尿病の食事について (Ⅰ) ③運動療法について  
2回目 ①糖尿病の薬について ②日常生活について ③糖尿病の食事について (Ⅱ)

各講座によって医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士がそれぞれ講師となり講習をおこなうこととしております。

講習時間は両日とも午後2時から4時までの2時間で、費用は1回毎に教材費として525円のほか、健康保険を適用します。ご紹介よろしくおねがいいたします。

＊予約・お問い合わせは地域医療連絡室までお願いします。

NEWS  
&  
NEWS

## 地区別地域医療懇話会 一三田・田町地区一

9月28日 三田・田町地区の先生方による地区別の地域医療懇話会が開催されました。

当院から戸田院長、梶浦・出川両副院長、小山外科部長、三山外科部長、東郷内科部長が参加しました。午後7時30分から戸田院長による「肝硬変の栄養療法」の講演で開始しました。

講演後の質疑応答では、紹介患者の受入れに関する当院も含めた近隣の医療機関の対応について各先生からの厳しいご意見をいただき、受入れ側病院としての対応・結果報告の迅速性などさらなるサービスの向上の必要性を認識するとともに、各先生とのコミュニケーションの大切さを痛感したひとときでした。

地域医療連絡室にとって、このような機会を設けて意見交換やご要望を各先生からお聞きすることが非常に重要であり、有意義だと考えており、今後も続けていきたいと思っております。

すでにご案内のとおり、来る11月17日(木)、18時30分から、当院において肝がん撲滅運動の教育講演会が開催されます。こちらの講演会にもぜひ多数の先生がたにご参加いただけるようお願い申し上げます。

また、各地区の先生方の集会、定例会などございましたらどうぞお気軽にお声を掛けてくださるよう、ぜひお願いいたします。



NEWS  
&  
NEWS

## 新任医師のご紹介



内科(呼吸器)  
楠本 壮二郎 医師  
中畠医師 後任



内科(消化器)  
やまざき たかひさ  
山崎 貴久 医師  
湯川医師 後任



脳神経外科  
たむらのりこ  
田村 徳子 医師  
中谷医師 後任

## 編集後記

せんぽだより「うえーぶ」4号をお届けします。

医療連携の充実の一環として今年の4月に創刊し、4号を数えますが診療科の紹介などお役に立っていますでしょうか。まだまだご満足いただける内容とは思っておりませんが、読みやすい紙面を目ざしてスタッフ一同一生懸命やっております。

「うえーぶ」の内容や地域医療連絡室に関するご意見・ご要望などございましたらぜひお聞かせ願えればありがたいと存じます。

次号は11月5日に行われる、「第8回 地域医療懇話会」の模様をお伝えする予定です。